

サイトレポート 山梨事業所

事業所をピックアップして、その取り組み事例を紹介していきます。今回は、主に装置の生産を担う藤井地区と、主に半導体プロセスの技術開発を行う穂坂地区とからなる山梨事業所の活動を報告します。



藤井地区

穂坂地区

環境への取り組み

山梨事業所には、装置の製造・組み立てと半導体プロセスの研究開発という異なる二つの顔があります。後者の代表格でもある穂坂地区のプロセステクノロジーセンターでは、次世代半導体プロセスなどに関する研究・開発を行い、お客様である半導体メーカーの環境負荷低減に貢献する製品づく

りを支えています。しかしこの研究・開発では電気や水を大量に使用するため、他事業所に比べ環境に与える影響が大きいという面があります。

山梨事業所では1998年5月のISO14001の認証取得を契機に全員参加の環境活動に取り組んでいます。

2001年度の環境管理活動

EHSマネジメントシステム

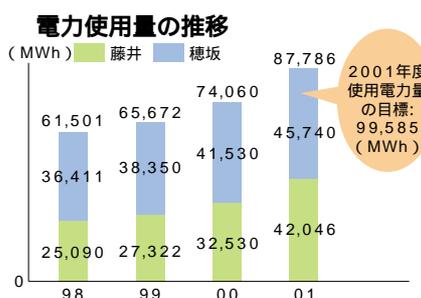
2001年度は、環境と労働安全衛生を統合した「EHSマネジメントシステム」の運用を本格的にはじめました。生産に伴う新規採用者などへの教育訓練の不備など、監査で指摘された事項を是正していくことで、システムの運用方法を改善しています。

廃棄物

分別を徹底し、廃棄物のリサイクルに努めています。2001年度は穂坂地区でのクリーンルーム24時間稼働のために、ふっ酸水、廃酸、廃アルカリなどの廃棄物が急増しました。

電力使用量

2001年度は電力使用量を、その年の目標値の90%未満に抑えることができました。これは、長期休暇を活用した設備の計画停止などの努力、および、世界規模のIT産業の不調による装置生産の減少によるものです。しかし藤井地区で新棟が稼働開始したことや、穂坂地区で6号棟クリーンルームが24時間稼働になったこともあって、2000年度に比較して電力の絶対使用量は増加しています。今後も継続して省エネルギーに引き続き取り組む必要があります。



化学物質

化学物質の取扱いは、東京エレクトロングループの「化学物質管理規定」に則って管理しています。新しく化学物質を導入する際は同じグループの「化学物質審査要領」に基づき事前審査を行っています。2001年度はPRTR制度の自主的推進と、環境汚染物質の排出量削減のためのヒアリング調査を実施しました。

PRTR対象物質の使用状況(2001年度)

化学物質名	使用量	備考
エチレングリコール	1,246kg	大気、水域、土壌への排出はなし
銅水溶性塩(錯塩を除く)	191kg	大気、水域、土壌への排出はなし
ふっ化水素およびその水溶性塩	1,335kg	大半は廃棄物として処理
マンガンおよびその化合物	調査中	100kgを超えるのが確実

山梨事業所では使用量が100kg未満の化学物質はPRTR法による管理・把握の対象外としています。

今後の課題

今後は、2001年度に整備した廃棄物排出量や電気使用量の数値データを活用し、よりきめ細かく、絶対量削減を重視した活動を展開する考えです。特にエネルギーについては、エネルギー管理指定工場となったこともあり、経済産業省の

指示方針を適用した新エネルギー管理システムの構築を図ります。また、安全面も含め、化学物質の管理と環境関連設備の管理をさらに充実させることが今後の課題です。

製品については、2001年度に引き続

き消費電力、ガス、水の削減を図ると同時に、製品から出る地球温暖化物質やオゾン層破壊物質などの削減も図り、納入先での環境負荷低減に貢献する製品づくりを進めていきます。